

会員の広場



マレーシア雑感

丸本 正人（東京）

マレーシアのMM2H (Malaysia My Second Home Visa)を取得するきっかけとなったのは、平成二十三年三月十一日の東日本大地震により大事故となった福島第一原子力発電所の事故とそれに関連するマスコミの報道の内容でした。地震発生は経済倶楽部の講演会が開

催された金曜日で、ちょうど講演会が終わり、友人と談話室で十五分くらい過ごして退室しようとした時でした。

その時点で首都直下地震ではないかと思いましたが、事務局の方から情報を得て午後三時半ごろ当倶楽部を退去し、四時間後に無事に帰宅できました。

早速TVを見ましたが同じ画面を放映するばかりなので、PCで海外のニュースを得ていましたところ、翌々日に原発上空に衝撃波が出現した映像を見ました。

それ以降、海外の反応にさらに関心をもっていたところ、友人が日本からマレーシアに去ったことを聞くに及んで、MM2Hの取得を考えました。

これはマレーシアの国策として制定された長期滞在可能ビザのことで、日本では人気のあるビザの一つです。取得には、現地での健康診断の受診などの要件がありました。申請して数か月で取得できました。

その翌年から現地の友人宅にホームステイし、英国の支配下にあった当時の名残を残すゴルフ倶楽部やパブに行くなどしております。特に日本の有力企業が進出した地域では日本人会や日本の代表的なスーパーもあって、多くの情報や日本食材も得られ、和食も楽しみました。しかしながら名門電機メーカーの撤退が伝えられるにつれ、日本人を見かけることも減ってきたと聞くこともありました。

今回友人から、KL(クアラルンプール)に

保有するコンドミニアムの件で訪馬するとの話があり、最近のKLの様子を見たく同行しました。KLの中心地ヴィキピントンでは、日本人の経営する店が少なくなつたようで、和食のなかには本来の味とは違つてるように感じるものもありました。

KLから日帰りでマラッカに行つてきましたが、古いTokyo Marineの看板を旧市街地で見つけ、以前の栄光を懐かしく思いだしました。現地の案内人により新しい見所として港の構築現場に行つてきましたが、そこでは中国資本による大規模な建設工事が進んでおり中国語の看板を出す店が多くありました。海外の各地で日本語が聞かれるようになって欲しいと思いました。